

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201203		
法人名	医療法人社団 鳳雄会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう		
所在地	千葉県花見川区犢橋町12番地3		
自己評価作成日	平成27年2月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.家庭的な環境のもとで日常生活を送っていただける様に取り組んでいる 職員だけではなく入居者様の出来る事(清掃・洗濯・食事の後片づけ)は関わってもらいながら支援している</p> <p>2.食事において旬の食材、産地直送の米の使用や器、盛り付けの工夫により美味しい食事作りに取り組んでいる</p> <p>3.浴室は広く設計して浴槽から外が見える快適な入浴を楽しんでいただいている。又車椅子の方も快適に入浴できるリフト浴を設置し支援している</p> <p>4.同法人の施設と合同行事(夏祭り・バーベキュー大会・餅つき大会等)を行い日頃の交流を行っている。</p> <p>5.千葉県グループホーム連絡会の会員(世話人)として他事業所との交流を図り研修にも積極的に参加している</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームゆうゆう」の近隣には法人の老人保健施設・サービス付介護住宅、市内にはグループ法人のグループホームがあり、行事開催時や日頃の行き来で交流を図っていると共に、必要時には、相談・連携を図っており、入居者のニーズに合わせた柔軟な対応が可能となっている。また、地域との良好な関係を築いており、ボランティア・行事招待等、様々な形で外部との交流を図っている。市のグループホーム連絡会の世話役を務めており、会議を通じて、市職員及び同業者と意見・情報交換をする機会を定期的に設けており、市の福祉ニーズの把握及びサービスの質の向上に繋げている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年3月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」はいつも目に付く場所に掲示して、いる。職員会議等で理念の内容を具体化して共有している	「ゆとりを持って・やさしく・ふれあう・里づくり」と言う理念を掲げており、事業所内に掲示している。運営推進会議で理念を説明すると共に、パンフレットへの明記等を通じて、外部への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中でコンビニでの買い物や個別でスーパーへの買い物の機会を設けホーム内の生活にならないよう支援している。	地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加・施設行事への招待等を通じて、交流を図っている。また、児童養護施設の児童やグループ法人の施設入居者との行事も設けており、様々な形で外部との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招いての合同行事等で認知症の人への理解や支援。介護保険等の相談は事例に基づき意見交換をおこなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月一回開催する目標で取り組んではいるがまだまだ実行されなく、年2回の運営推進会議になっている。出席していただいた方と意見交換を行い反映している。	運営推進会議は年4回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・家族等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換等を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に努めている。また、地域からの相談が挙がる事もあり、地域との関係促進のツールともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉県高齢施設課主催の研修への参加。千葉県グループホーム協会を通じ市町村との連携を図っている	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っており、連携を図っている。また、市のグループホーム連絡会の世話役を務めており、会議を通じて、市と意見・情報交換を行っており、サービスの質の向上及び運営の適正化に繋げている。	

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で拘束を行っている人はいない。身体拘束の研修は積極的に受けている、受けてた職員は研修報告してもらい共有している。玄関施錠は日中はして施錠しているないが、夜間8以降は夜勤者1人の為施錠している	身体拘束排除及び虐待防止に関する研修に参加しており、職員への理解を深めている。日中は玄関の施錠を行わず、センサーを活用しながら見守り等を行い、入居者の自由な生活を支援するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修として資料を用い虐待の種類や虐待が起こる要因について研修を行っている（職員会議中）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかに理解はしている。外部研修等は積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時における重要事項説明書や利用契約書の説明は時間をかけ、お互い納得した上でサービスの提供が始められる様心かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族が意見を言いやすいように些細な事でも相談、報告を行う様に気をつけている。苦情相談窓口、意見箱を設置している	家族の訪問時・電話連絡時に直接意見・要望等を確認している。また、行事案内の配布・施設行事への招待等を通じて、家族とコミュニケーションを図りながら意見の言いやすい関係構築に努めている。挙げた意見・要望等においては、会議や連絡ノートにて周知・検討の上適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は職員会議の前後に打ち合わせの時間を設けて意見交換をしている	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する機会を設けていると共に、管理者が個別に話を聞く機会を設けており、意見・思いの把握に努めている。休憩・休暇が十分に取れるよう配慮すると共に、希望や能力に応じた人事異動を行っており、働きやすい職場環境の整備及び人材の確保に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望はほぼ取り入れ働きやすい環境に努めている。職員の実績を具体的に評価した上で昇給を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	共通の知識や技術はホーム外でも学べる機会を作れるよう情報提供は常に行い参加できる環境の確保に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム協会に加入して協会が主催する研修に参加している。又協会を通じて千葉市のグループホームとの交流につながっている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時でのご家族、ケアマネ等の情報を元に利用者の情報をチームで共有し入居後の環境の変化に対応できる様心がける		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、不安、要望、既往歴等を聞き取り契約時に契約書、要事項説明書の十分な説明をしている。入居後も些細な事でも本人がホームの生活になれるまで定期的に報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その人で必要としている事はことなるので十分なカンファレンスを行いプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活習慣・個々にあった役割(食器洗い・掃除・洗濯物たたむ等)を職員と一緒にやる事で関係を築いている。		

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会主催にてバーベキュー・運動会、建物の回りの草取り時に職員と家族同士の交流の場になっている。問題が発生した時は家族と話し合い相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出。外泊。電話等はいつでもできる様対応している。入居者が家族の了解を得て入居者の知人・友人と外出する事もある。	希望に応じて、知人・友人・家族の訪問を随時受け付けていると共に、手紙や電話のやり取りも自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、グループ法人の施設入居者との交流機会も設けており、新たな馴染みの関係構築にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時、車椅子を押してもらうなど助け合える瞬間を大切にした支援が行える環境を整える。 レクでのボール投げ、創作作り等で交流を図れる様支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者様家族からの通信があり、ご親戚、友人の入居相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の困難な方に対しては性格、生活歴、御家族等から得た情報を踏まえ、本人本位となるよう関わりがもてるよう努めている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、医療機関や他サービス事業所からの情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、入居後も常に会議・申し送り・連絡ノートを活用しながら、職員間で情報の共有を行うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、周囲の方に性格、生活歴等の情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、健康チェック表等を朝、夕の勤務交替時に情報の共有が出来る様にしている。朝夕の申し送りと連絡帳はまめに行っている。		

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットリーダー・及びび担当者を含め今ご本人に必要なニーズの把握、家族の希望も聞き実践に反映できる様介護計画をたてている	本人・家族の意向を確認しながら、会議で検討し、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。様々な形で家族とのコミュニケーションを図るよう努めており、意見・要望を引き出すことで、希望やニーズに沿った介護計画を作成できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、排尿チェック表・バイタルチェック表等を夜勤帯と日勤帯とわかる様夜間は赤字で区別したり連絡ノートをまめに活用し、共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにより散歩・買い物等の外出の機会を設けている。又同じ法人との協力体制も整っているので柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、コンビニ、回転ずし等本人、御家族の意向をもとに資源の活用に心がけ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診継続の方。協力病院に受診希望の方、自由に選択してもらっている。緊急時は家族の承諾のもと協力病院に受診できる様になっている。	内科医・歯科医の往診を実施していると共に、希望のかかりつけ医への受診を支援しており、適切な医療受診を行っている。往診記録を作成し、家族への報告・情報の共有に活用している。また、必要時には、法人の看護師に相談を行う事が可能となっており、適切な支援が行える協力体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師が配置していない為、協力病院の医師・看護師との連携を密にしている。同母体施設(老健)の医師看護師にも相談している。		

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師との話し合いと、御家族との連携を図りながら退院後も安心して過ごされる様な体制を作っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まで看取って欲しいとの家族の要望が多いが協力病院の医師・家族と相談しながら対応している。	終末期・重度化における施設方針を契約時に説明し、同意を得ている。必要時には、家族や医師と相談し、意向に沿った支援を行っている。また、家族の希望に合わせた対応ができるよう法人内や医療機関との協力体制も整備している。施設内に日中の見守りや家族の宿泊に使用できる静養室が設置されており、終末期における柔軟な支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。職員会議等で随時話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報専用電話の設置。災害マニュアルを作成しているホーム内で防災訓練を定期的に行っている。参加出来ない職員には随時申し送りで報告し共有している。	スプリンクラー・自動通報機・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。訓練では、夜間想定訓練等を実施しており、ケースに応じた避難方法の確認を行っている。また、マニュアルの確認・他施設での事例検討等を実施しており、災害時・緊急時における職員の意識向上を図っている。その他にも、毎日火元確認を実施しており、火災予防にも取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴、性格等を踏まえて日々対応している。入浴、排泄介助におけるプライバシー等マニュアルを作り、職員会議等で研修している。(主に新職員に対して)	プライバシー保護・接遇・個人情報保護における研修を実施しており、職員に意義の理解を促進している。声掛けや言葉使い等に十分注意すると共に、希望に応じて同性介助を実施する等、入居者のプライバシーに配慮した支援を行っている。	

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定ができる様促し職員が希望を聞く等して表出しやすい状況を作る努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のパターンの中で天候、本人の気分、体調によりその人にあった快適な時間を過ごされる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみにおいては夜勤者が朝本人と相談しながらその日の気分でコーディネートしている。近隣の訪問理美容師の方には定期的に来所してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に本人の嗜好を聞き楽しみのある食事にしている。職員と一緒に食事作りが出来るレベルの入居者様はいないが、後片づけ(皿洗いが出来る方はいるので一緒に行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。職員が入居者の希望や食材の在庫を考慮し、柔軟に変更しながら献立を作成している。定期的に外食行事の実施・特別職の提供等を行っており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々食事摂取量(3回)、水分摂取量を記録している。入れ歯、嚥下状態によっては刻み食、トロミ食にして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕に口腔ケアを行い、義歯は夕食後ポリデント洗浄している。訪問歯科と提携し、必要の方は受診している。		

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人一人の排泄パターンを把握する事でオムツの使用を減らしている	排泄チェック表を活用しながら個々のパターンを把握しており、状況や仕草を観察しながら声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。水分摂取の励行・乳製品の活用・運動の実施等を通じて、自然排便を促すと共に、必要に応じて、医師・薬剤師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の記録(一日千ccを目安)し可能な限り体を動かしていただいている。食事においても乳製品(ヨーグルト、牛乳)は意識してつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の状況に応じ、午前、午後に入浴できる様にしている。	入居者の希望や体調に応じて、時間や回数を柔軟に調整し、週2~3回の入浴を支援している。また、必要に応じて清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。浴室には、浴用リフトを設置しており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員個室対応になっている為、テレビ鑑賞したり昼寝したり自由にすごされても良い環境ではあるがほとんどリビングで過ごされている方が多い。リビングでうたた寝されている利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に体調を報告し主治医からの処方により薬担当が管理し、個人個人の薬の使用目的がわかるファイルを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一ヶ月の日程と活動に沿って支援している。又その人に合わせ(好きな事、嫌いな事)た活動もとりいれて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候とその人の体調にもよるが、ドライブ、近隣の公園へ散歩、外食、近隣の施設へ散歩を兼ねて遊びに行ったり途中で買い物したい希望があればコンビニで買い物の支援をしている。 外泊に於いては家族の協力を得ている	天候・体調・希望に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を日頃から実施しており、戸外に出る機会を設けていると共に、ウッドデッキや敷地内での園芸やひなたぼっこを実施し、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。その他にも、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。	

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方はいないので家族の了解をえて職員同伴で買い物をしている。その時は本人にお金を持たせ支払をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの事務所内で職員が横につき電話はいつでもかけられる様にしている(ご家族了解のもと) 手紙も届いたら渡しているが今のところ年賀状が多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共有スペースはゆったりとした空間を確保しており、廊下の壁等は季節感を取り入れた展示物を掲示している。トイレ等は混乱しないようネームプレートや場所の名称をかいた装飾をしている。清掃箇所を職員で分担し心地良く過ごせる様工夫している。	共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、和室スペースは、体調不良時の静養に活用し、適切な見守り及び支援が行える環境整備がなされている。両ユニットの間にウッドデッキが設置されており、外気浴・お茶のみ・プラター園芸に活用しており、気軽に外の空気を楽しめる環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビングにはそれぞれ自由に過ごす事が出来る様長椅子、ソファを置いている又ウッドデッキへ出て日光浴が出来る様自由に入出入りが出来る様になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを可能な限り入れてもらって環境の変化を最小限に出来る様配慮している。 仏壇を持って来られている方もいる。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリー設計になっている。ドアは引き戸になっており廊下の幅は車椅子での移動にもゆとりがある。歩行においても手すりを設置し安全に出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している		